

国道3号現地診断 (熊本県芦北町田浦)

カルテ点検箇所(国道3号248k350付近(葦北郡芦北町田浦地先))において、令和2年7月豪雨時に山側のり面から土砂が流出しており、のり面上部の複数個所で新たな崩壊が発生し不安定な土塊も見られた。現地状況の詳細な把握及び対応策の検討のため、国交省職員・TEC-Doctor・カルテ点検受注者等による現地調査を実施した。

出席者:熊本大学 北園名誉教授、椋木教授

● テックドクターによる調査(令和2年12月14日)



【今回ののり面からの土砂流出・新たな崩壊について】

- ・風化が進みやすい泥岩や砂岩からなり、豪雨の影響で表層の風化部が不安定化し、崩壊した。
- ・吹付のり面上部の新しい崩壊は、起点側の崩壊部だけではなく、終点側にも崩壊跡がある。次の豪雨では、今回の崩壊部だけではなく、新規の崩壊が発生する可能性がある。

【対策方法について】

- ・応急対策としては、吹付のり面上部の平坦地に応急的に簡易的な土砂落下防止用の柵を設置。
- ・恒久対策としては、吹付法面上部に位置している崩壊が数多くみられる一連の斜面に対して法面保護工を施工。